

# 再生

師友道友の活動を綴る善行伝承誌

よのみだれののしるこ急はさわにあれど

われのころはしたがひかゆつ

森信三先生あいうえお語録より

第0041号

2020.1月号

令和三年

実践人福岡仁風読書会

再生の題字（森迪彦様提供）は、森信三先生の直筆です。



# 現代における孝の哲理

森 信三先生 講述

— マナコを閉じて親の祈り心を —

六 親はすぐれたるが故に敬するに非ず、

親たる事実のゆえに敬するべきである

大智 大悲

ところで本論にもどりますが、わたくしたちは、いろいろな事を学びかつ知識をうるに随つて、ものなり人なりをとかく批判的に見るようになりがちであります。これも大事な知の働きのひとつではあります。しかし真の智慧というものは、人の心の察しがよくつくということも申せましょうか。人心への洞察・明察がきくというわけです。随つてまた物事や将来の見通しが利くということでもあるわけです。ではそれはどうしてかと申しますと、知識のように皮相的断片的な借りものの知ではなくて、その根本が慈悲心から発しているからであります。随つて智慧と慈悲とは本来一つのものの表裏ともいえましよう。そこからしてまたこれを大智大悲ともいい、非智円満とも申すのであります。ですから慈悲なき知識は真の智慧ではなく、智慧なき慈悲は真の慈悲ではないわけです。

それゆえ「人を愧ずべきは明眼の人を愧ずべし」というコトバが「正法眼蔵随開記」にござりますが、言葉をかえて申しますと、「逢うべくんば明眼の人に逢うべし」「就くべくんば明眼の師に就くべし」ともいえましよう。「明眼の人」とは真の叡智を具えた人ということであります。わたくしたちが真に師とすべきはまさにこういう方であるべきです。

この章の最初に申したように、わたくしが広島高師時代に西晋一郎先生にお逢い出来たということは、まさに終世の恩恵と思われてなりません。随つて今

なお、師の遺影を机上に飾つて、自らの懈怠を戒めているわけです。昨年のですが、わたくしとしては生涯における最後の著述として、「情念の形而上学」に着手する数日前、はからずも西晋一郎先生の夢をみたのでありまして、先生はもともと寡黙な方で何も仰言られませんでした。すべてを見抜き見透かされているような想でした。

こうして西晋一郎先生の学統の一端に汲む者として、若い皆さん方に今回「考」の哲理について申し述べる機会に恵まれたことは、何ともいえぬ深い感慨であります。妙縁ただならぬものを感じるのであります。今や人生の最晩期にあるわたくしとして、若いあなた方に申したいことは、「どうか皆さん！親ごさんを批判的にのみ見ないで、深き洞察と同悲の気持ちをもつて見直して頂きたい」ということでもあります。

甘え心を

では、子として親の気持ちの察しがつきにくいのは何故かと申しますと、その原因の一つは結局「甘え心」にあるとも申せましよう。と申すのもこの「甘え心」のある間は、親の念の一端すら判りにくいと言えるからであります。そしてこの「甘え心を断つ」ことの第一は、さしあたりお金のことで、親に心配なり負担を極力かけないということでしょう。と申すのもこの点が分りかけて来ますとお互い人間は、多少とも親の気持ちの察しがつくようになるからです。これは言いかえますと、お金について親の苦勞の察しがつかぬ間は、たとい年令的には幾つになつてもまだ甘え心がとり切れず、精神的には幼稚園児思考の延長線上に在るといつてよいからです。

実践人福岡仁風読書会 第38回 12月7日(土)

場所福岡県糟屋郡志免町向ヶ丘2丁目4番3号 仁風庵にて

(実践人の家の会員であればどなたでも参加できます)

(参加費無料) 詳細は、世話人へお問い合わせください。

## ドモリと習字

興膳君のお母さんの手記が、朝倉郡父母教師連合会発行の「PTAの友」拾周年全国表彰記念号に載っているのを転記して参考に供したい。

ドモリと習字(前号からの続き)

三並 興膳 利子

いつか冬の寒い日でした。帰りが遅いので迎えに行くと、遠い道を一人トボトボ帰ってきています。私の姿を見かけると、にっこり笑って「今日は残って勉強したのは、男はぼく一人じゃった。」と嬉しそうに話すのです。「そうえらかったねえ」と励ましながら……。この子のどこにそんな意気込みがあったのだろうか、嬉しさに、子供の顔がクチャクチャに見えなくなっていました。

その頃から「元気が出てきました。口ごもるけれども手を上げて発表するようになりました。」「習字の時間は元気がよく楽しそうにしている。」「と先生からお聞きするようになり私の喜びは例えようもございません。

そうして何と不思議なことでもございましょう。二年生頃までは、あんなにひどかったドモリがいつか知らない間に、スッカリなおつてしまいました。

この頃では、あんなにムツカシかった国語の読むこともでき、今では元気いっぱいお友だちと遊んでいるわが子を見ますと、病弱とドモリに悩んだ八年前の苦労も、高く澄み渡る秋空の中に吸いこまれる思いです。

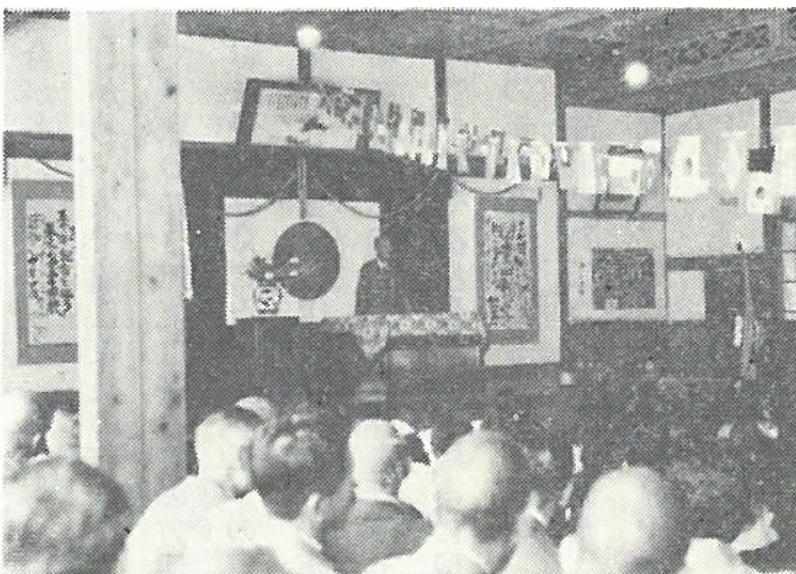
口もきかずに、自分の成績を認められる、習字のかくれた精神力によるものではあるまいかと、泌々書道の喜びを新にしながら、見落とされがちな陽かげの子に、神よりも仏よりも、医者よりも、暖い手を差し伸べて、我が子と私ども一家に、明るい希望に満ちた輝かしい陽の当る世界をお授け下さった。校長先生と池田先生に心から感謝のまごころを捧げて今後は力強く生き抜きたいと念じています。

(昭和三十四年三月)

## 主体的な人間創り

長い教壇生活の最後に、母校の中牟田小学校長として帰ってくることにした私は、この上もない幸せで、教師冥利に尽きると感激でいっぱいだった。

あたかも、中牟田校は創立五十周年を迎え町内小学校教室改築五ヶ年計画の第一着手として新しく八教室が竣工したばかりであり、又、記念事業として校区、卒業生等の寄贈による独立図書館が建築中で略々竣工をまつまになつていた。私は、これら校舎校庭の改築改装とあわせて、本校創立後の第二の五十年の第一歩として教育の改善振興をはかるべき任務を心深く認識して、身の引き締まる思いであった。



創立五十周年記念祝賀会、壇上は二代目の田代校長先生

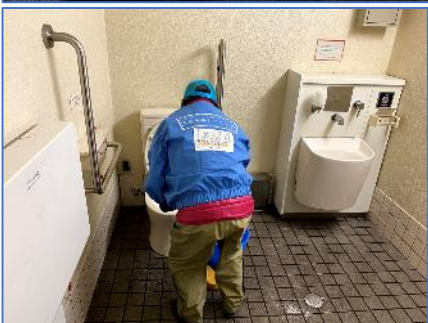
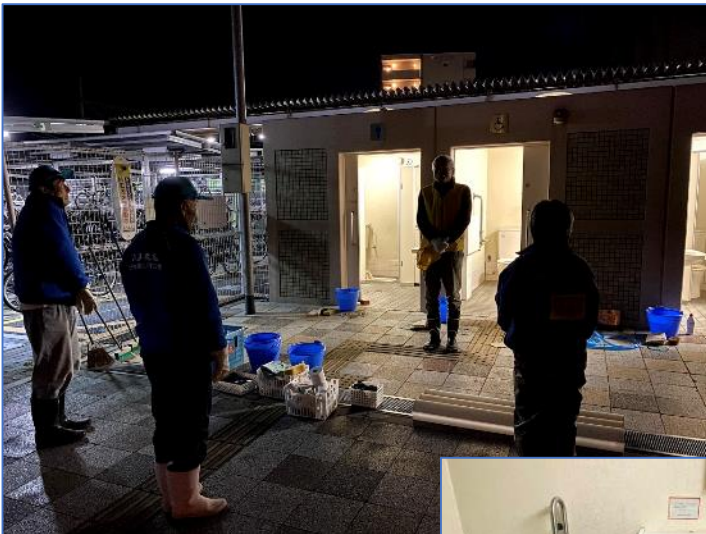




**第19回 福岡空港ミليون清掃**  
12月7日(土曜日) 6名参加



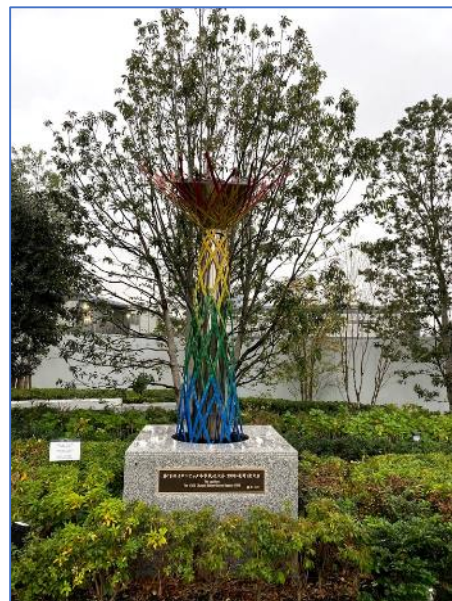
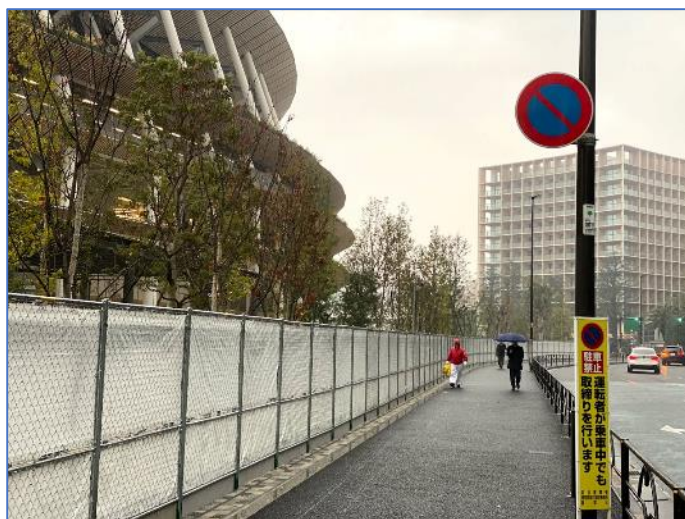
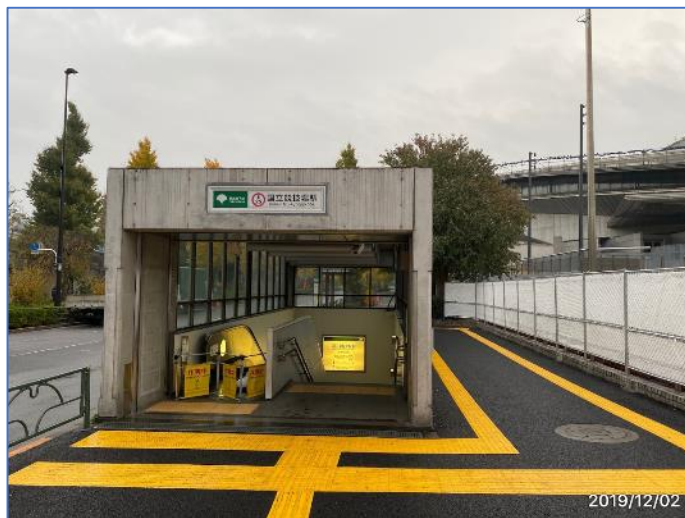
**新新塚駅早朝清掃/いづか明星寺団地自治会**  
12月21日(土曜日)





# 新国立競技場周辺の一人ゴミ拾い

12月2日(月曜日)



12月1日のニュースでオリンピックミュージアムが新たな観光地という報道を耳にした。たまたま、翌日2日は埼玉県での行事参加の為、上京していた。早速路線図を調べて電車の乗った。代々木駅で乗り換えて千駄ヶ谷駅で下車した。小雨の降る中、工事中の作業員が仮囲いの中へ入って行く。早朝ということもあり観光客の姿はなかった。駅から国立競技場へ向かう道々、空き缶・紙屑が買い物袋一杯になった。競技場を半分ほど回ったところで、赤い服装の作業員風の男性が黄色い袋を腰に下げて一人ゴミ拾いをしていた。すれ違いざまに会釈をしてニコヤカになった。自分一人ではなかった。同じ志をもつ人がいた。嬉しかった。東京で二度目のオリンピック。ごみ一つない競技場もオリンピック文化にしたい。おもてなし文化の日本でありたいです。 けさえもん 拝



日本一きれいな博多駅・福岡の街に！

第 313 回

# 博多駅 早朝清掃

毎月 **8** 日 午前 6 時 15 分～

【第一回】平成 5 年 12 月 8 日開催

福岡実践人・JR 九州博多駅  
精華女子高等学校・福岡掃除に学ぶ会

 ハウスメイト



## 第313回 博多駅早朝清掃

12月8日(日曜日)

156名参加



第 3 1 3 回「博多駅早朝清掃」は、この日、27年目のスタートとなりました。昨日、年次大会に参加した同志道友も殆どこの早朝清掃にも参加、南は鹿児島から北は埼玉県、栃木県からと掃除にも歓喜が湧き上がりました。創会者の帆足先生も大いに喜ばれたことでしょう。令和のお掃除道友の挨拶は、「ご苦勞様」「お疲れ様」から「おそうじさま」へと改声！楽しい掃除をした後に疲れなど残る筈もなく「おそうじさま」がびったりです。









利会長の挨拶

2019/12/07



お掃除功労者の表彰

2019/12/07



2019/12/07



博多駅長の挨拶

2019/12/07



2019/12/07



阿部先生の講演

2019/12/07



千葉先生の講演

2019/12/07



串間同志のひとり芝居



荻野道友の津軽慕情



第43回福岡実践人研修会に、博多駅長の列席を賜り全国各地からも同志友が集いました。帆足先生が森信三先生の学びと実践を継続された結実の大会となりました。「時を守り、場を清め、礼を正す」を徹底して実践継承して行くそんな福岡であり続けたいと思います。



# 第118回 冷泉公園&櫛田神社早朝清掃

12月15日(日曜日)



櫛田神社

5名参加



冷泉公園

6名参加

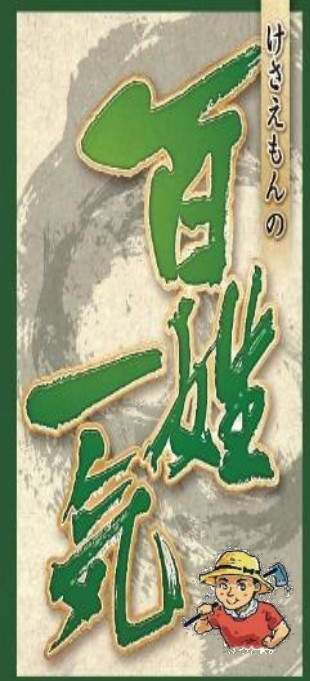




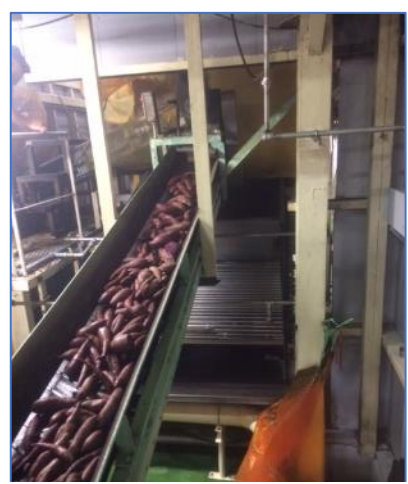
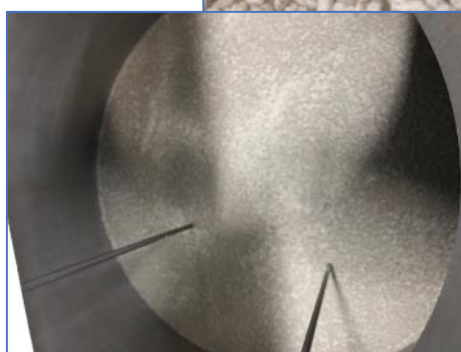
埼玉県川越産初の本格芋焼酎の仕込み開始



原材料のさつま芋と麴用米の到着



洗米から麴種菌蒔き



原料芋選別～芋洗い～芋蒸し作業



現材料搬入から米麴作りが10日、さつま芋を洗って蒸し工程を経てタンクで発酵熟成をじっくりまつ。／鹿児島島田苑酒造にて製造中です。



ワーズワースの詩想を育んだ山つきの屋敷の敷地は、大木におおわれた急傾斜をなし、木の間隠れに見えるライダル湖に向けて落ち込んでいる。家は、入口近くの芝地にあった。二階の書斎はインク臺まで往時のままになっていて、窓越しに大ぶりの山の稜線が黒々と見える。湖水地方生まれのワーズワースは、ケンブリッジに学んだ青春の一時期を除けば、その生涯のほとんどをこの地方で過ごした。二、三度、転々としてから、この場所が気に入って「終の栖」と定めたのは、一八一三年のことだった。

それからほどなくして一八二〇年代の初め、巡回馬車でたびたびこの地方を訪れる富裕は商人とその息子がいた。この少年が、ヴィクトリア朝後期の思想界の巨人となるジョン・ラスキンである。「私の胸に焼きついた人生最初の映像、それは、乳母に付き添われてフライアーの崖縁から見下ろしたダーウエント湖の眺め」と、湖畔の記念碑にラスキンのことが刻まれている。

後期浪漫派の美術思想家として活躍したラスキンの処女作「近代画家論」(一八四三)くらい、その文才を称賛した文人のなかにワーズワースもいた。しかしラスキンの後半生は、工業国家として驀進するヴィクトリア盛代の理論的支柱であった古典経済学への攻撃に捧げられた。それは、彼の名声を傷つけかねない行為であった。分業と機械化によつて功利を追求し、全的な人間と美を蔑視する産業優先社会に向つて果敢にたたかいたラスキンの苦悩の生涯の最後を看とつたのもまた、湖水地方の山水であったという。

ラスキンの中世建築論を読み、強い思想的血縁を結んだウィリアム・モリスは、桂冠詩人に推されてオクス

フォード大学の詩学教授に招かれたりするほどの詩人としても知られながら、生涯の最大の仕事として工芸の理論を追求し、モリスの多彩な生涯を通じて一貫した関心事は、畢竟、物と人間が正しい倫理関係をとり結ぶようにすることであったように思える。モデルは中世であった。新しい生活の用にしたがって次々に現れる物どもに方法的自覚をもつて正しい形と相貌を与えること、つまりデザインが、モリスの最終目標であった。モリスは、絵画、彫刻のような「大芸術」よりも建築からカーペットにいたる「小芸術」のあり方こそ、その確かなモリスのいわゆる「小芸術」のあり方こそ、その確かな日常性のゆえに「人と自然、人と人、さらには人と超越的なものとのそれぞれの関係の正しい結節点」を見出そうとする。モリスにとつてそれは、どうしても世直しに結びつくものであった。モリスのおこなったことは、「人のいのちの根元」にかかわる「趣味の思想化」であったという指摘もまた正しいであろう。

風景学入門より

中村良夫 著

中公新書 一九八二年

二〇一九年二月二二日

広葉の林を育てる会

興膳 丈治







再生一月号

令和元年一月八日発行 (毎月一回八日発行) 創刊 平成二十八年九月一日 発行人 富吉 袈裟右衛門

	1月の活動予定表									2月の活動予定表										
日	1	4	4	5	5	8	18	25	28	1	1	2	5	8	15	16	19	20	22	29
曜	水	土	土	日	日	水	土	土	火	土	土	日	日	土	土	日	水	木	土	土
行事活動名	長目の浜海岸清掃	福岡空港ミリオン清掃 第20回	仁風読書会	榎田神社トイレ磨き	冷泉公園トイレ磨き&トイレ拭き 第110回	博多駅早朝清掃 第314回	新飯塚駅早朝清掃	令和を巡る早朝清掃	埼玉県農業生産者 支援	福岡空港ミリオン清掃 第21回	仁風読書会	榎田神社トイレ磨き	冷泉公園トイレ磨き&トイレ拭き 第120回	博多駅早朝清掃 第315回	第34回 実践人東京地区研修会	埼玉県農業生産者 支援	第13回 日本を美しくする会 総会	新宿歌舞伎町早朝清掃	新飯塚駅早朝清掃	令和を巡る早朝清掃
場所	鹿児島県薩摩川内市里町	福岡空港 周辺一万亩	福岡空港 月隈第一緑地	榎田神社	冷泉公園	博多駅筑紫口	福岡県飯塚市	福岡県太宰府市 戒壇院	埼玉県川越市	福岡空港 周辺一万亩	福岡空港 月隈第一緑地	榎田神社	冷泉公園	博多駅筑紫口	東京都品川区	埼玉県川越市	東京都新宿区	東京都新宿区	福岡県飯塚市	福岡県太宰府市 戒壇院
開始時刻	9時	6時30分	7時30分	6時	6時40分	6時00分	6時30分	6時30分	28日〜29日	6時30分	7時30分	6時	6時40分	6時00分	午後	16日〜18日	午後	5時50分	6時30分	6時30分
運営団体	有志連合	福岡掃除に学ぶ会	福岡実践人	福岡掃除に学ぶ会	福岡掃除に学ぶ会	福岡掃除に学ぶ会	福岡掃除に学ぶ会	福岡掃除に学ぶ会	NPO法人余農人	福岡掃除に学ぶ会	福岡実践人	福岡掃除に学ぶ会	福岡掃除に学ぶ会	福岡掃除に学ぶ会	実践人東京読書会	NPO法人余農人	日本を美しくする会	東京掃除に学ぶ会	福岡掃除に学ぶ会	福岡掃除に学ぶ会

発行人(編集人) 富吉 袈裟右衛門

- ◇福岡掃除に学ぶ会/認定NPO法人 日本を美しくする会
- ◇福岡仁風読書会/一般社団法人 実践人の家
- ◇笑仲クラブ/特定非営利活動法人 楽農人

〈合同事務局〉 〒811-2247

福岡県糟屋郡志免町向ヶ丘2丁目4番3号 <<仁風庵>>

TEL 092-931-8155(掃除) 931-8150(読書) FAX 092-931-8120

E-mail fukusukai@souji.link (掃除) agri@kesajin.link (農業)



「再生」に掲載している写真は、富吉が撮影・管理しています。必要な方は事務局までご連絡ください。